

琉球・沖縄
年中行事?なんでも!
Q&Aウサンデーを食べるのは、
女の子? 男の子?

●Answer

沖縄市・コザ山 球陽寺 前住職
綿依 龍照 (きえりゅうしょう)

Q 男の子3人の母親です。義祖父・夫の仏壇を見ています。行事の重箱・お菓子・果物は、私一人で食べさせたいです。沖縄では「お供え物を男の子に食べさせるものではない」と聞いたことがあり、タタリなどが心配です。

(Mさん)

A 沖縄の年中行事・お葬式・ご法事などでは、性別(女性・男性)による役割分担をしているものが多くあります。男女同権がうたわれる現代社会においては、賛否両論の言葉もありますが、まずは代表的なものをご紹介します。

女性を中心とするもの

◎旧暦2月吉日(ヤシチヌウグワン〈屋敷の御願〉)・旧暦8月10日(シバサシ〈芝差し〉)・8月12日の地域・家庭もある)・旧暦12月24日(ウグワンブトウチ〈御願ほどき〉)など、ヒヌカン(火之神・ミーヒヌカンガナシー〈御火之神加那志〉)の担当。
◎旧暦3月吉日・旧暦7月7日(タナバタ〈七夕〉)・旧暦8月吉日・旧暦10月吉日など、シンクチ(洗骨)の担当。
◎儀式・法要のウカサイ(お飾り)・ウサギムン(お供え

物)など、ウサンデー(お下がり)の担当。

男性を中心とするもの

◎昔、葬列(そうれつ)の籠(がん・ひつき)・四流旗(しりゅうき・名旗(めいぎ))など、担ぎ手・騎(かぎ)し手の担当。

◎お墓のヒラチ(ふたいし)・ウコルイシ(香炉石)など、開門(かいじょう)・閉門(へいじょう)の担当。

◎儀式・法要のウチカビ(打紙)・シルカビ(白紙)など、カビアンジ(カビジン〈紙銭〉あぶり)の担当。

これは、あくまでも一例ですが、これも地域や家庭によつては逆転することもあります。ですから絶対と言う訳ではないのですが、私が伺ったウサンデーのしきたりの理由を説いてみます。

性別にこだわらない理由

「お供え物は女の子(女性)だけで食べる」「お供え物は男の子(男性)だけで食べる」という考え方を耳にしたことがあります。理由を聞けば、「ウサギムン・ウサンデーは、女性の役割だから」「お供え物は女性だけで食べる」という方と、逆に「儀式・法要は、男性の役割だから」「お供え物は男性だけで食べる」という方もいらっしゃいます(あくまでも、説

明してくれた方の個人的な見解です)。

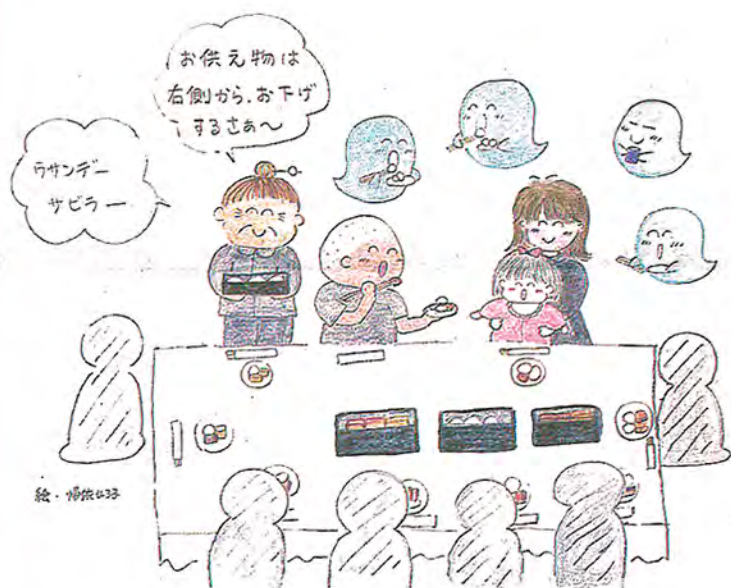
性別にこだわらない理由

一方、「お供え物は家族・親族全員で食べる」という考え方を耳にしたこともあります。理由は、「イチミヌヤーンジユ・エーカヌハンジョー(この世の家族・親族の繁栄)だから」「お供え物は家族・親族全員で食べる」とのことでした(これも、同じく個人的な見解です)。

ウサンデーは各家庭の判断

沖縄のしきたりは、ウサンデーの考え方一つにしても、いろいろ地域性に富んでいることがうかがえますが、各

家庭の判断であることも確かなことのようにです。ご相談されたMさんのお宅では、双方を否定することなく性別にとらわれず「お供え物は家族・親族全員で食べる」という考え方を選択されています。「教養は毛穴から入る」という格言があります。「ウサンデー サビラ(お下げい)たします」と、ウサギムンを食べられている3人の息子さんたちは、その環境に育つだけが無意識のうちにも、多くの沖縄のしきたりを学ばれていることでしょう。ご心配なく、これからも今のウサンデーを継続してください。Mさん、息子さんたちはとても頼もしいですね。



絵・綿依 龍照